令和７年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 健光園	代表者	古石隆光
事業所名	健光園あらしやま 小規模多機能ホーム	管理者	白村聡周

法人・事業所の特徴	「生涯地域居住」を法人理念として、人と人がつながり、生涯その地域で住み続ける事が出来る社会を創る目的を掲げている。健光園あらしやま小規模多機能ホームは、京都市で初めての特養併設型の小規模事業所です。「あなたらしさと共に」という理念を掲げ、地域性や大規模事業所の特色をいかしたサービスや地域交流を実施したい。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	3人	1人	1人	1人	1人	12人	0人	0人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	次年度も同様の実践をするとともに、ご利用者の自己実現に向けた取り組みの実践をし、地域の関係者とも共有していく。	コロナも明け、ご利用者の「～したい」の取り組みも実践でき、地域行事のもご利用者と一緒に参加できた。	介護職員を担当制にすることで、ご利用者のアセスメントをさらに掘り下げ、より自己実現に向けた取り組みができるのではないか。	介護職員に担当を担うことで、より専門職としての質を高め、個々のご利用者の自己実現を抽出し、実践をしていく。
B．事業所のしつらえ・環境	引き続き、地域ボランティアや外部者の受け入れを勧めていく。	運営指導で書類や薬剤の保管についての指摘事項については改善できた。	指導があった部分の改善は見られたが、キッチン棚に個人情報が保管されている事が気になった。	個人情報の保管場所は再考。うずまさ学園パン販売やカフェの告知を広げていく。
C．事業所と地域のかかわり	より広域的に小規模多機能を知ってもらう機会を作っていく。	民生委員を対象に小規模多機能の講演を実施したが、地域の中での認知が広げられていない。	一般的には小規模多機能の認知にはいたっておらず、さらに地域との関わりを増やす。	引き続き、地域ケア会議や行事に参加し、小規模多機能をより知っていただくとともに、施設へ来ていただけるよう取り組んでいく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	これまでは管理者、ケアマネが中心に地域の関係者と関わっていたが、次年度は職員も地域行事と関わる機会を作る。	地域行事や防災訓練には職員もかかわることができ、地域の関係者に一部の職員については知っていただくことができた。	引き続き、今年度参加した地域行事には関わり、運営推進会議に介護職員が参加することで、より関係性を作っていく。	これまでの関わりを継続するとともに、介護職員も参加できるよう便宜を図る。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を通じて、自治会長、民生委員から介護についてどのような不安があり、知識を求めているかを吸い上げる。	運営推進会議を通じて、民生員に小規模多機能事業を知っていただくことができたが、介護についての発信ができなかった。	前回できていなかった、介護教室や、制度の発信ができる場を設けていきたい。	運営推進会議の委員より、介護の不安を聴き取り、発信をしていく。
F．事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練には引き続き参加し、施設の防災訓練においても地域の関係者と行えるように便宜を図る。	地域の防災訓練に参加し、施設の防災訓練にも参加いただいた。	今後はBCPを踏まえて、地域との連携を、訓練を通じて、精査していくことが必用ではないか。	BCP（災害）のマニュアルを地域の関係者とも共有し、訓練に取り入れていく。